

NEWS LETTER

2023 VOL.40

デザインフィル環境・社会貢献活動

DESIGNPHIL NEWS LETTER

デザインフィル ニュースレター 第40号

発行日 | 2023年8月27日

企画・編集 | マーケティング部 広報グループ

TEL 03-5789-8058 FAX 050-3606-4957

株式会社デザインフィル

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー9F

www.designphil.co.jp

この冊子は、使用した用紙（ヴァークレイ CoC）と同じ重量のCO₂を国内のオフセット・クレジット（J-VER）によってオフセットしています。1冊あたり約26g、4,285部製作しましたので、26×4,285=約111.41kgのCO₂をオフセットしています。



DESIGNPHIL NEWS LETTER

2023 VOL.40

デザインフィル環境・社会貢献活動

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

AIと私たちの未来



代表取締役社長
会田一郎

生成AIという言葉を見聞きしない日は無い昨今、私もChatGPTを試しに使っていますが、できることのレベルと進化のスピードには驚かされます。情報のアップデートを怠れば新しい技術に置いていかれそうな気ぜわしさを感じる一方、デジタル技術が入力や出力の接点を人の感覚に近づけ、誰もがためらいなく利活用するようになっていく未来も容易に想像できます。私は通勤にクルマを使っていますが、このペースでAIが進化したら私たちがクルマと自然な会話を取り交わすのは時間の問題でしょう。自動運転で家に着いた後、クルマがおおよその所要時間とともに電気や水素をチャージしに行く旨を伝えてくる。急がないので交通量の少ない深夜で構わないと伝える、といったSFのような世界が到来するかもしれません。

私が米国で働き始めた1983年ごろ、コンピューター産業のメッカである現地で感じた一番の衝撃がコンピューターの小型化と表計算ソフトの登場でした。5~10kgほどの“小型”コンピューターを持ち運び、自動計算を手元でプログラムできるという利便性は革新的でした。今では当時のスーパーコンピューターの能力を上回るスマートフォンを誰もが手にしていて、コンピューターはさらに居場所をオフィスのデスクから手のひらやポケットに移し、常時携帯する数百グラムのものになりました。ChatGPTによれば、1983年当時最も高性能だったのは米国クレイ社のスーパーコンピューターで、1秒間に8億回の計算が可能でした。(2020年発売のiPhone12は毎秒1兆1,800億回で1万5,000倍の計算能力)

さらに驚くことは、COMPAQのような当時の先端を走っていたハイテク企業や、ネットスケープナビゲーターのようなシェアNo.1アプリケーションの多くが、いまや存在さえしていないという事実です。一方、今日のデジタル社会の基盤とも言えるGAFAMはアップルとマイクロソフトを除いて当時未だ産声さえ上げていなかったのです。新しいものが勃興し既存のモノと入れ替わってきたイノベーションの力とスピードに驚かされます。そして前述の生成AIの登場です。今のところ使う側が何を求めているのか?を良く理解していくAIの返答の適切性を判断できれば調査助手のような役割は効率よくこなせるようです。しかし発想という0→1のタスクはヒトに委ねられ、私たちが抱える課題の解決や生活の質向上において、デザインの果たせる役割はますます大きくなっていくことでしょう。

一般社団法人設立のお知らせ

この度デザインフィルは、企業理念である「デザインによる社会と文化への貢献」を体现すべく、一般社団法人デザインフィル社会文化貢献基金を設立いたしました。デザインの創造活動ならびに次世代人材育成といった、クリエイティブ領域に特化したサポートを通じて、より良き未来に貢献したいと考えています。

デザインフィル 環境・社会貢献活動

プロダクトを製造する過程では、さまざまな廃棄物が発生します。デザインフィルではできるだけ廃棄を減らし、資源を循環させる取り組みを行っています。こうした活動は、環境・社会貢献の社内プロジェクト「ミライLABO」を中心に、デザインフィルらしいやり方を模索しながら進めています。本格的な活動は始まったばかりですが、その中からいくつかをご紹介します。

**『ポケットダイアリー』表紙の
リサイクル**

『ポケットダイアリー』にはさまざまな素材が使われているため、分別が難しく、今まででは焼却処分を行っていました。「その素材を処分することなく、リサイクルすることはできないか?」そんな思いから、ポケットダイアリーに使われている塩ビ素材の表紙を再生塩ビとして生まれ変わらせるという、初めての試みを行いました。(株)クラン様、(株)三洋様、ヤスダビニール工業(株)様のご協力のもと、分別と再生作業を行い、表紙は投票所などの床に敷かれる養生シートに生まれ変わりました。

流山工場見学開催

公募による一般ユーザー向けの流山工場見学を初開催しました。デザインフィルらしい環境活動は何だろう?と考え、製品がどんな風に作られているのかを知ることで、より愛着を持ち長く使ってもらいたい。そんな思いを込めて企画しました。

流山工場見学開催

4月に「ミドリ」のインスタグラムで募集を開始。153名ものたくさんの方にご応募いただきました。工場がある流山近隣にお住まいの方、学生からファン歴何十年の方など、皆さんから寄せられた熱いコメントに当選者を決めるのに苦労しました。当日は24名が参加。製造工程～品質管理～物流までのツアーを行いました。次ページで参加者の皆さんの1日をレポートします。

3 4

工場見学ツアー密着レポート

流山工場の最寄り駅 「南流山駅」集合

マイLABOのスタッフがお迎え。デザインフィル号に乗って工場に向かいます。



流山工場に到着

まずは会議室で見学の流れを説明。内片工場長から工場の概要、スタッフから見学の流れを説明。印刷のミニクイズで参加者の皆さんとの緊張をほぐしたら、さっそく見学スタート！



工場見学用のリーフレット

「MDノートライト」のフォーマットを活用し、工場見学用のリーフレットを作りました。表紙は活版印刷、裏面にあるデザインフィルのロゴは空押しに。流山工場での作業工程をぎゅっとまとめた一冊です。

刷版・印刷エリア

普段見ることがない印刷の様子を間近でご覧いただきました。中でも活版印刷機は大人気！ずっと見ても飽きない姿にときめいていた方多数。



品質管理

地道な作業ですが、見落としがないように集中してチェックする姿に「品質が保たれ届けられる安心感」が伝わったようです。



加工・製本エリア

さまざまな工程の中で、人の手も多く関わっていることに驚いている方がたくさんいました。大量に積まれた紙に感激する姿も。



物流エリア

「ミドリ」をはじめとした製品がずらーっと並んでいる様子に感嘆の声が上がりました。「ミドリ」のアイテムがここからお店や自分たちのもとへと届いているのかと喜んでいた様子でした。



参加者の感想

デジタル化が進む現代ですが、こんなにまだまだ手作業で行う工程があることに驚き、ものづくりへのこだわりや製品への愛を感じました。



これまでにない経験をさせていただき、本当に貴重な時間を過ごしました。いつも使っているノートが作られていく過程を見て、ますます愛着が湧きました。皆さん丁寧に作ってくださっているのを見て、これからも「ミドリ」の文具を使っていきたいなと思いました。

「おしゃれ」というイメージが先行していましたが、「丁寧さ」「こだわり抜く」という、とても職人気質な方々が作り出してくれているんだと、分かりました。



ツアーを終えて

当社のものづくりのスピリットを感じていただけたこと、工場の職人へのリスペクト、これまで以上に「ミドリ」の製品に愛着を持ってくださったことに大変嬉しく思います。参加者のレポート投稿は「#文具のミドリ」で検索してご覧ください。



📖 アメリカ文具マーケットレポート

2019年に米国現地法人Designphil America, Inc.(以下、DPA)を設立し、米国市場において「ミドリ」「トラベラーズカンパニー」「プロッター」の3ブランドを展開しています。

今号では、日本との比較を交えながらアメリカの文具市場のレポートをお届けします。売り方や買い方の違い、ユーザーの特徴、今後の展望などについて、DPAの責任者、会田ゆりにインタビューしました。

＼ interview ／

アメリカの特徴

アメリカは50州から成る合衆国で、日本の国土の約26倍の広さを有します。移動は基本車で、お店に足を運ぶハードルが高く、オンラインでの販売が主流です。

文具の位置づけ

大半のアメリカ人が「文具」と聞いたときに思い浮かべるのは、消耗品としてのオフィス系文房具。機能、デザインにこだわったデザイン文具が存在することすら知らない人が圧倒的多数です。

日本のような文具店はある？

文具大好きなオーナーが経営する個店も、数は少ないながら西海岸や東海岸中心に存在します。ソーシャルメディアを介してお客様への情報発信やコミュニケーションを積極的に行ってています。

文具好きな人の特徴

文具にこだわりを持っている人は、物の品質へのこだわりや背後にあるストーリー性への興味・関心が高く、その点に関して万国共通の特徴だと思います。

今後の展望

ブランド・製品のファンを仲間に取り込み、ファンと一緒にブランドを作りながら、ブランドをきっかけに繋がった人たちのコミュニティを育てていきたいと思います。動く店舗を持ち全米をキャラバンするという夢も、いつか叶えたいです。

DPAの活動について

米国では文具はこだわりを持って買う対象ではなく、安かろう悪かろう、使い捨てアイテムとしての位置づけに甘んじています。そんな文化に一石を投じたい。こだわり抜いたモノと経験の提供を通じて、米国のアナログ文化に意味のある変化を起こすことが、活動をする意味だと考えています。



Chicago Pen Show

イリノイ州、インディアナ州、ウィスコンシン州、ミシガン州、アイオワ州といった中西部地域の住人を対象としたペンショー。例年90以上のベンダーが参加し、開催期間中に1,000人以上のお客さまが来場します。今回、「プロッター」のブースに、プロデューサー斎藤と、イベントでペインティングを担当している山口が参加し、現地ユーザーとの交流を深めました。二人の感想を交えながら、イベントの様子をお伝えします。

Chicago Pen Show

2023年5月5日(金)~7日(日)
Chicago Marriott Northwest

お客様の声

立ち止まって手に取ってくれる人は口を揃えて「商品の佇まいが美しい」と、「プロッター」の、無駄をそぎ落とし、研ぎ澄まされた見た目のデザイン性の高さを評価していただきました。リフィルのシステムなどの機能性も兼ね備えているということが分かると、「なんで今までこういうものがなかったんだろう!」という嬉しい言葉を漏らす人も。

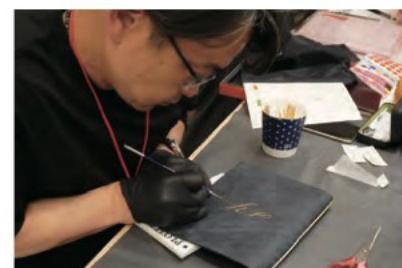
ユーザーの特徴は?

時間をかけてコミュニケーションを楽しむ人たちが多く、スタッフとの会話をとても大切にしていました。素材とものづくり、ブランドに対するリスペクトを忘れない文化が根付いていると感じました。



アメリカ市場におけるプロッターの手応え

手に取って見てもらえば、魅力が確実に伝わる。そういう手応えを感じました。実績が無くても良いものは素直に認め、称える。そこがアメリカの良いところだと思っています。



今後アメリカでやってみたいことは?

アメリカでしか出会えないブランドやアーティストとのコラボレーション企画。アメリカで求められているサービスメニューを増やし、よりユーザーに楽しんでもらえる内容を増やしていきたいです。

新オフィスに移転しました

新たにショールームを設け、取引先への各ブランドの世界観の発信やユーザーとの交流の場として活用していきます。

新住所 1390 E Burnett St., Unit G, Signal Hill, CA 90755, United States



カスタマイズの嗜好は?

サンフランシスコペンショーで人気の革はライトな色合いに対し、ダークでオイリーな本格派が人気。全米広し、異なる国がいくつかあるかのような錯覚に陥りました。

ありそうでなかったアイデア文具

昔からある製品だけど、なんとなく使いにくかったり、便利なのに家庭で使われていなかったりした文具たち。ちょっと視点を変えて工夫することで「どうして今までなかったんだろう!」というアイテムに大変身した製品2点をピックアップ。開発の裏側に迫ります。

軽い力でキレイにカット!
クラフトテープカッター



この製品を

作ろうと思ったきっかけ

クラフトテープを手で切ると切り口が汚くなる。ハサミやカッターを使うと刃がペトペトになるとといった経験はありませんか?市販のテープディスペンサーは刃がギザギザでサイズが大きい。これらを踏まえ、軽い力で切り口がまっすぐキレイに切れて、使いやすく保管性に優れたテープディスペンサーの開発がスタートしました。



こだわったポイント

- 1 テープを軽い力で切り口をキレイにカット
- 2 刃が露出していない安全設計かつ簡易なテープの着脱
- 3 刃は交換が可能両面刃
- 4 コンパクトな本体サイズ&ストラップ穴付きで優れた保管性



開発中に苦労したこと

- 1 刃先に対してテープを正しい角度で当てる
 - 2 テープにテンションをかけた状態で切る
- 無意識に使ってもこの2点を満たせる最適な形状を見つけるのに時間を要しました。



発売後の改良ポイント

両側面の中央部分にリブを立てることで、使用中にテープがずれにくくなり、切り口をキレイに切れる使用感を向上したほか、スプリングバネの強度を上げることで、ガムテapeにしっかりと固定するようにアップデートしました。

ゆっくり戻って安全安心
スローコンベックスメジャー



開発のこだわり

- 1 ダンパー(※)で負荷をかけることでテープの戻りスピードを遅くする
- 2 危なくない・煩わしくない 絶妙なスピードバランス
- 3 漂く機能を絞り、ストップバーは付けず、テープは家庭用に最適な2m

(※)カセットデッキの取り出しやキッチンの扉などをゆっくりと開閉する機能



開発中に苦労したこと

最適なダンパーの負荷力

バネの力にかかる負荷が強すぎるとテープの戻りが途中で止まり、弱すぎるとテープの戻りが早くなるなど、最適なダンパーの負荷力を導き出すのに多くの検証を行いました。開発期間は約4年!





オジサン



オジサンのポケットダイアリーがリニューアルしました

「ミドリ」の公式インスタグラム(@midori_designphil)でアンケートを行い、ユーザーの生の声を集めました。使いたいフォーマットや欲しい付録などについて、1,700人の方からさまざまなお声をいただきました。

【リニューアルのポイント】

★これまで1月～12月だったのを、1月～翌年3月に変更
会社や学校などの年度末の予定まで書き込めます

★月間ブロックページに
ToDo欄を設置



★路線図をなくし、
切り取りメモと、
今年の出来事を
一覧できるマイ
メモリーズに



★A6サイズの2種のフォーマットを変更

★月間スケジュールと
メモのみのシンプル
なフォーマット



「オジサン」公式ホームページも
新しくなりました

トップページには、ゆらゆらと動いていたり、
空を飛んでいたりする「オジサン」が。新コン
テンツ「オジくじ」も登場！「オジサン」が
今日の運勢を教えてくれます。
www.midori-japan.co.jp/ojisan/



切り取りメモは新しい試みなので、ぜひ皆さんに見ていただきたいです。

作っている自分が一番楽しみながら作っています。その楽しい気持ちが、きっと使う人にも伝わる、と信じています。
今回は編集も見直し、「これなら自分も使いたくなる」というものを作りました。ぜひ使ってみてください。

作者のコメント



一般社団法人
デザインフィル社会文化貢献基金
The Designphil Future of Design Fund

一般社団法人デザインフィル社会文化貢献基金設立のお知らせ

この度、当社の企業理念「デザインによる社会と文化への貢献」に基づき、クリエイティブ領域に特化した社会貢献事業団体、一般社団法人デザインフィル社会文化貢献基金を2023年4月6日(木)に設立しました。また、設立に際し、活動資金6,500万円を2023年6月1日(木)付で寄付を行いました。

デザインフィル社会文化貢献基金では、デザイン文化の更なる普及と発展、日本のものづくりの国際競争力向上に寄与すべく、社会文化の貢献活動に取り組んでまいります。

「第20回手づくり絵はがきコンクール」参加賞提供



日本製紙連合会が主催する「第20回手づくり絵はがきコンクール」の参加賞として、「ミドリ」の『動物ひとことシール』を提供しました。子どもたちに楽しみながら環境(リサイクル)について学ばせ、さらに絵を描くというクリエイティブな要素も含んでいるというところが、当社の環境への考え方と共通するためご協力させていただきました。

編集後記

今号では特集にちなみ、使用した用紙重量に相当する二酸化炭素をオフセットすることができ、温室効果ガス削減に寄与することができる紙「ヴァークレイCoC」を使用しました。できることから少しづつ。工場見学や生産過程で出る端紙の再利用など、デザインフィルらしいやり方を模索しつつ、今後も活動に取り組んでいきたいと思います。(編集長M.N.)